

市浦小学校（小中併置校）改修(建築・校舎食堂)工事

改修工事特記仕様書

工事概要

1.工事場所

青森県五所川原市相内岩井85

2.敷地面積

1,9454.387 m<sup>2</sup>

3.工事種目

小学校 木造一部鉄筋コンクリート造 2階建 改修工事

	校舎	食堂	合計
建築面積	1,091.368	311.803	1,403.171
延べ面積	1,903.428	257.083	2,160.511
1階床面積	978.164	257.083	1,235.247
2階床面積	925.264		925.264
計	1,903.428	257.083	2,160.511
建築面積・床面積			
自転車置場	9.600 m <sup>2</sup>	1棟	
新設プレハブ物置	3.870 m <sup>2</sup>	1棟	
移設プレハブ物置	16.980 m <sup>2</sup>	1棟	
内容	改修内容表に依る		

4.指定部分

有

無

対象部分（指定部分工期 年 月 日）

5.工事範囲

「3.工事種目」すべてを工事範囲とする。  
「3.工事種目」のうち 工事範囲は下記のとおりとする。

建築改修工事仕様

(1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁營繕部制定の「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版（以下「改修標準仕様書」という。）及び「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版（以下「標準仕様書」という。）によるほか、下記仕様書等のうち、を付けたものを適用する。  
・建築工事標準詳細図（令和4年版）（以下「標準詳細図」という。）  
・建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）

(2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の特記仕様書は（ / ）図、機械設備工事の特記仕様書は（ / ）図による。

(3) 本特記仕様書の表記  
1) 項目は、印の付いたものを適用する。  
2) 特記事項は、印の付いたものを適用する。  
・印の付かない場合は、印の付いたものを適用する。  
・印と印の付いた場合は、共に適用する。  
3) 特記事項に記載の〔 〕内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。  
4) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。  
5) G印は、「国等による電機物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「電機物品等の調達の推進に関する基本方針（令和4年2月25日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断の基準）を満たすものを示す。

章

①各章共通事項

項 目

②仮設工事

③防水改修工事

特記事項

④防水改修工事

⑤防水改修工事

⑥防水改修工事

⑦防水改修工事

⑧防水改修工事

⑨防水改修工事

⑩防水改修工事

⑪防水改修工事

⑫防水改修工事

⑬防水改修工事

⑭防水改修工事

⑮防水改修工事

⑯防水改修工事

⑰防水改修工事

⑱防水改修工事

⑲防水改修工事

⑳防水改修工事

㉑防水改修工事

㉒防水改修工事

㉓防水改修工事

㉔防水改修工事

㉕防水改修工事

㉖防水改修工事

㉗防水改修工事

㉘防水改修工事

㉙防水改修工事

㉚防水改修工事

㉛防水改修工事

㉜防水改修工事

㉝防水改修工事

㉞防水改修工事

㉟防水改修工事

㊱防水改修工事

㊲防水改修工事

㊳防水改修工事

㊴防水改修工事

㊵防水改修工事

㊶防水改修工事

㊷防水改修工事

㊸防水改修工事

㊹防水改修工事

㊺防水改修工事

㊻防水改修工事

㊼防水改修工事

㊽防水改修工事

㊾防水改修工事

㊿防水改修工事

備考欄

青森県五所川原市金木町中泊本館石250番地

日東綜合株式会社

TEL 0173-53-2491 FAX 0173-53-2493

管理建築士

一級建築士事務所 泉知事登録 第1120号

大丘登録 第260109号 一級建築士 片山 正一

承認

設計

担当

縮尺

設計年月日

2025.02

工事名称

市浦小学校（小中併置校）改修(建築・校舎食堂)工事

図面名称

校舎・食堂棟 改修特記仕様書（その1）

NO.

TKA-01

[illegible]



・アルミニウム製建具	性能値等	[5.2.2～5][表 5.2.2]	・鋼製軽量建具	材料	[5.2.2][5.5.2～4]	・特殊加工化粧合板 G	化粧加工の方法 プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板	・ MDF G	接着の程度（・1類 ・2類 ）	[5.10.3]	車椅子使用者用便房スイッチの種類 ・大形押しボタンスイッチ ・非接触スイッチ 凍結防止措置 ・行方 ・行わない									
	耐風圧性の等級（ ・ ） （建具符号： ・建具表による ・ ） 気密性の等級 （ ・ ） （建具符号： ・建具表による ・ ） 水密性の等級 （ ・ ） （建具符号： ・建具表による ・ ） 外部に面する建具の種類 ・A種（建具符号 ・建具表による ・ ） ・B種（建具符号 ・建具表による ・ ） ・C種（建具符号 ・建具表による ・ ） 枠の見込み寸法 （ ・建具表による ・ ） 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級（ ・ ） （建具符号： ・建具表による ・ ） 断熱ドア・断熱サッシ G 断熱性の等級（ ・ ） （建具符号： ・建具表による ・ ）	ステンレス鋼板 SUS304、 SUS430J1L、 又はSUS443J1 ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ HL ・ 形状及び仕上げ 表面処理 外部に面する建具 種別 ・BB-1 ・BB-2（改修標準仕様書表5.2.2） 着色 ・標準色 ・特注色 屋内の建具 種別 ・BC-1 ・BC-2（改修標準仕様書表5.2.2） 着色 ・標準色 ・特注色 結露水の処理方法 ・水貯め式 ・排水式 工法 水切り板、ぜん板 図示による		形状及び仕上げ 鋼板類の厚さ 改修標準仕様書表5.4.2による 標準型鋼製建具の形式及び寸法 建具表による ・ 性能値等 簡易気密型ドアセット ・適用する （建具符号： ・建具表による ・ ） ・適用しない 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級（ ・ ） （建具符号： ・建具表による ・ ） 断熱ドア・断熱サッシ G 断熱性の等級（ ・ ） （建具符号： ・建具表による ・ ） 耐震性能 建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による			材料 鋼板 ・亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板 ステンレス鋼板 SUS304、 SUS430J1L、 又はSUS443J1 ・ 召合わせ、縦小口包み板の性質 鋼板 ・ ステンレス製のくつずりの仕上げ HL ・ 形状及び仕上げ 鋼板類の厚さ 改修標準仕様書表5.5.1による ・ mm 使用箇所（ ・ ） 標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法 建具表による ・				全物の種類及び見え掛り部の材質等 改修標準仕様書表5.8.1により適用は建具表による ・ 金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ 改修標準仕様書表5.8.2による ・建具表による 樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ 改修標準仕様書表5.8.3による ・建具表による 木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ 改修標準仕様書表5.8.4による ・建具表による 木製建具に使用する戸車及びレール 改修標準仕様書表5.8.5による ・建具表による 握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置 ・建具表による ・ ・シリンダ箱錠及びシリンダ本錠まり錠（品質・性能、試験方法は別表による） ・クローザ類（品質・性能、試験方法は別表による）	マスターキー ・製作する ・製作しない ○既存のマスターキーに合わせる その他の鍵の製作本数 各室3本1組（室名札付き） ・ 鍵箱 ・無し ・有り	戸の開閉方式 ・建具表による ・引き戸用駆動装置 性能値 改修標準仕様書表5.9.1による（防錆 ・適用する ・適用しない） ・以下による 種類・開閉方式（ ） 耐電圧（ ） 温度上昇（ ） 耐久性（サイクル）（ ） 防錆（ ） 電源（ ） ・車椅子使用者用便房出入口引き戸用駆動装置 性能値 改修標準仕様書表5.9.2による（防錆 ・適用する ・適用しない） ・以下による 耐電圧（ ） 温度上昇（ ） 耐久性（サイクル）（ ） 防錆（ ） 電源（ ） ・引き戸用検出装置 性能値 改修標準仕様書表5.9.3による（防錆 ・適用する ・適用しない） ・以下による 耐電圧（ ） 温度上昇（ ） 耐久性（サイクル）（ ） 防錆（ ） 電源（ ） 引き戸用検出装置の種類及び必要性能項目 ・建具表による ・ タッチスイッチの種類 ・無線式タッチスイッチ ・光線式タッチスイッチ	・自閉式上吊り引戸装置	性能値等 改修標準仕様書表5.10.1 ・以下による 手動開き力（ ） 手動閉じ力（ ） 閉じ速度の調整（ ） 制動区間（ ） 開閉繰返し（ ） 耐衝撃性（ ）					
	・網戸等	[5.2.3、 5.3.3]		種類			材質				線径	網目	・防虫網	合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	0.25mm以上 ・	16～18メッシュ ・	・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm
	・樹脂製建具	性能値等		[5.2.2][5.3.2～5]			・ステンレス製建具				性能値等	[5.2.2] [5.4.2] [5.6.2～5]	○ 鍵	[5.8.4]	○ 建築用金物	[5.8.1～3]	・軽量シャッター	[5.12.2～4]		
・鋼製建具	性能値等	[5.2.2][5.4.2～4][表5.4.2]	○ 木製建具	性能値等	[5.2.2] [5.4.2] [5.6.2～5]	・自動ドア開閉装置	[5.9.2、 3]	・オーバーヘッドドア	[5.13.2、 3]	・ガラス	[3.7] [5.14.2～4]									



・ 軽量鉄骨壁下地	スタッド、ランナの種類 改修標準仕様書表6.7.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ・ 図示による ・ スタッドの高さが5.0mを超える場合 図示による 出入口及びこれに準ずる開口部の補強 改修標準仕様書6.7.4(5)による ・	[6.7.3. 4] [表6.7.1]
○ ビニル床シート G （トイレ用）		[6.8.2. 3]
・ ビニル床タイル G		[6.8.2]
	</	

7塗装改修工事

○材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放数量  
F  
防火材料  
屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。  
次の箇所を除き防火材料とする。（箇所：）

○下地調整

塗替えR8種の場合の既存塗膜の除去範囲  
○劣化部分は除去し、活膜部分は残す  
・図示による  
既存錆止め塗料の鉛含有量調査  
・行う（箇所）  
・行わない  
下地調整

下地面の種類

下地調整の種類

塗替え

ひび割れ部の補修

木部

不透明塗料塗りの場合はR8種

-

鉄鋼面

R8種

-

亜鉛めっき鋼面

R8種

-

亜鉛めっき鋼面（鋼製建具等）

R8種

-

モルタル面及びせつこうプaster面

R8種

・行う  
・行わない

コンクリート面(DP以外)、ALCパネル面

R8種

・行う  
・行わない

押出成形セメント板面

・RA種  
・RC種

・行う  
・行わない

コンクリート面（DP）

・RB種  
・RC種

・行う  
・行わない

せつこうボード面及びその他ボード面

R8種

-

○素地ごしらえ

(7.3.2-7)

下地面等

種別

木部

不透明塗料塗りの場合

A種  
・B種

鉄鋼面（DP以外）

透明塗料塗りの場合

B種  
・A種

鉄鋼面（DP）

C種  
・A種  
・B種

亜鉛めっき鋼面

B種  
・A種  
・C種

モルタル面及びせつこうプaster面

B種  
・A種

コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面

B種  
・A種

押出成形セメント板面及びコンクリート面（DP）

B種  
・A種

コンクリート面（DPのみ）

B種  
・A種

せつこうボード面及びその他ボード面

目地：縦目処理工法  
目地：縦目処理工法以外

A種  
・B種  
B種  
・A種

・錆止め塗料塗り

錆止め塗料塗りの種別

(7.4.2、3)

素地面

塗装の種類

塗料の種類

工程の種類

SOP  
(工程の種類は表7.4.3)

塗替え

A種

C種

新規見え掛け

A種

A種

新規見え隠れ

A種

B種

EP-G

塗替え

B種  
・A種

C種

新規見え掛け

B種  
・A種

A種

新規見え隠れ

B種  
・A種

B種

DP  
(工程の種類は表7.4.4)

塗替え

7.4.2(1)(f)(b)による。  
C種(下地調整R8種)

・B種(下地調整R8種)  
・C種(下地調整RC種)

新規

7.4.2(1)(f)(a)による。  
A種

・A種

亜鉛めっき鋼面

SOP  
(工程の種類は表7.4.5)

塗替え

A種  
・B種

C種

新鋼製建具等  
規|その他

A種  
・B種

A種

EP-G

塗替え

C種

C種

新鋼製建具等  
規|その他

C種

B種

DP  
(工程の種類は表7.4.6)

塗替え

B種

-

新規

B種

-

○塗装

(7.5.2-7.12.2)

塗装の種類

塗装面

工程

塗替え

新規

合成樹脂調査ペイント塗り(SOP)

木部屋外

B種

A種

木部屋内

B種

B種

塗装の種類

鉄鋼面

B種

B種  
・A種

亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）

A種

B種

亜鉛めっき鋼面（鋼製建具以外）

B種

B種

・クリヤラッカー塗り(DL)

B種

B種

・A種  
・A種  
(着色塗料の種類：)

・着色塗料の種類：)

・Aクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)

B種

・A種

B種  
・A種

・耐候性塗料塗り(DP)

鉄鋼面

上塗り等級（）級

・

-

亜鉛めっき鋼面

上塗り等級（）級

・

-

コンクリート面及び押出成形セメント板面

・

・A-1種  
・B-1種  
・C-1種

つや有合成樹脂エマルジョンベイント塗り(EP-G)

コンクリート面等

B種

B種  
・A種

屋内の木部

B種

A種

屋内の鉄鋼面

B種

B種  
・A種

屋内の亜鉛めっき面

A種

A種  
・B種

合成樹脂エマルジョンベイント塗り(EP)

B種

B種  
・A種

合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り(EP-T)

B種

・A種  
・B種

ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)

B種

B種  
・A種

・ステイン塗り

・ビグメントステイン塗り  
・オイルステイン塗り(OS)

B種  
・A種  
B種  
・A種

○木材保護塗料塗り(IIF)

B種  
・A種

B種  
・A種

つや有合成樹脂エマルジョンベイント塗り（エポキシ面、珪酸面、せつこうプaster面、せつこうボード面、その他ボード面）の塗替えの場合のしき止め

B種又はC種の場合は、改修標準仕様書表7.9.1の工程1の下塗りをしき止めシーラーとする

合成樹脂エマルジョンベイント塗りの塗替えの場合のしき止め

B種又はC種の場合は、改修標準仕様書表7.10.1の工程1の下塗りをしき止めシーラーとする

高日射反射率塗料塗り G

下地調整（改修標準仕様書表7.2.2）

RB種  
・RA種  
・RC種

工程

塗料その他

規格番号

規格名称

種類

等級

塗付け量  
(kg/m)

塗料塗り

JIS K 5675

屋根用高日射反射率塗料

2種

・1級  
・2級  
・3級

塗料製造所の仕様による

クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用

適用しない

適用する(着色剤：・溶剤系着色剤  
・油性染料着色剤)

ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用

適用する

適用しない

オイルステン塗りの工程等

・

8耐震改修工事

改修特記仕様書（その8）（その9）による

○石綿含有建材の除去工事

[9.1.1、3～6]

調査

石綿含有建材の事前調査

工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。

貸与資料（）

分析による石綿含有建材の調査

分析対象

アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、トレモライト

分析方法

材料名

定性分析方法  
(JIS A 1481-1)または  
(JIS A 1481-2)

定量分析方法  
(JIS A 1481-3)、  
(JIS A1481-4)または  
(JIS A 1481-5)

・(箇所)

・(箇所)

・(箇所)

・(箇所)

サンプル数

1箇所あたり3サンプル

採取箇所

・図示による

石綿粉じん濃度測定

測定時期、場所及び測定点

適用

測定名称

測定時期

測定場所

測定箇所数  
(各施工箇所ごと)

測定 1

処理作業前

処理作業室内

・計  
点

測定 2

調査対象室外部の付近

・計  
点

測定 3

処理作業室内

・計  
点

測定 4

セキュリティゾーン入口

・計  
点

測定 5

処理作業中

集じん・排気装置の排出口  
(処理作業室外の場合)

出口吹出し風速1m/s以下の位置

・計  
点

測定 6

処理作業室内

・施工区画周辺  
・敷地境界

・計  
点

測定 7

処理作業後  
(シート養生中)

処理作業室内

・計  
点

測定 8

処理作業後  
(シート撤去後)

処理作業室内

・計  
点

測定 9

調査対象室外部の付近

・計  
点

測定方法

自動測定器による測定

測定名称

測定方法

測定 4

粉じん相対濃度計(デジタル粉じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

測定 5

・JIS K 3850-1に基づいた測定

測定名称

メンブレンフィルタ

試料の吸引流量  
(L/min)

試料の吸引時間  
(min)

測定 4

25

5

30

測定 5

47

10

120

測定

47

10

240

測定

石綿含有建材の処理

石綿含有吹付け材の除去

除去対象範囲

・図示による

除去工法

改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による

除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置

湿潤化  
・固形化

除去した石綿含有吹付け材等の処分

埋立処分(管理型最終処分場)  
・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

・

外断熱改修工事 G

[9.2.1～4]

断熱材の種類

断熱材の種類

断熱材の厚さ(mm)

断熱材の厚さ(mm)

施工箇所

・図示による

ホルムアルデヒド放数量

F

外装材

種類

防火性能

備考

鋼材

改修特記仕様書第8章 8-3 鉄骨工事

・鋼材による。

笠木

改修特記仕様書第3章

・アルミニウム製笠木による。

既存外壁の処置

既存外壁仕上材の撤去

・行う  
・行わない

下地面の清掃

・行う  
・行わない

欠損部の改修工法

改修特記仕様書第4章 外壁改修工事による

・

工法

1章 適用区分による風圧力の(・1  
・1.15  
・1.3)倍の風圧力に対応した工法

不陸等の下地調整

断熱材の施工

断熱材製造所の仕様による

外装材の施工

外装材製造所の仕様による

通気層の有無

有( mm)  
・無

外装材の外壁への取付け

・図示による

笠木の施工

改修特記仕様書第3章 アルミニウム製笠木による

フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放数量

F

開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放数量

F

工法

断熱材打込み工法

断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材

種類

厚さ(mm)

施工場所

断熱材現場発泡工法

断熱材の種類

・A種1  
・A種1H

吹付け厚さ(mm)

・25  
・30

施工箇所

・図示による

断熱材後張り工法

断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材

種類

厚さ(mm)

断熱材にせつこうボード等を張り付けたパネル

材質

厚さ (mm)

張り付け工法

断熱材の張り付け工法

断熱材へのボードの張付け工法

植栽基盤及び材料

・屋上緑化軽量システム

芝及び地被類の種類等

図示による

見切り材、舗装材、排水孔、マルテング材等

図示による

(品質・性能、試験方法は別表による)

工法

1章 適用区分による風圧力の(・1  
・1.15  
・1.3)倍の風圧力に対応した工法

かん水装置

設置する(種類  
・)

既存保護層の撤去

・行う  
・行わない

新植した芝及び地被類の枯補償の期間

引渡しの日から1年

・

透水性アスファルト舗装改修工事

[9.5.2～5、9]

適用範囲：歩道

既存舗装の撤去及び再利用

図示による

路床

路床の材料

種別

材料

厚さ(mm)

・盛土

・A種  
・B種  
・C種  
・D種

・建設汚泥から再生した処理土 G

・図示による

・凍上抑制層

・再生クラッシュラン G

・クラッシュラン

・切込み砂利

・砂

・図示による

・フィルター層

・砂

・図示による

(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験)

・行う  
・行わない

路床安定処理

適用する  
・適用しない

安定処理の方法

置き換え工法  
・安定処理工法

路床安定処理用添加材料

種類

普通ポルトランドセメント

高炉セメントB種 G

フライアッシュセメントB種

生石灰(・特号  
・1号)

消石灰(・特号  
・1号)

添加量

kg/? (目標CBR  
・3以上  
・)

目標CBRを満足する添加量の確認方法

安定処理土のCBR試験

・

・ジオテキスタイル

単位面積質量

60g/m<sup>2</sup>以上

厚さ(mm)

0.5～1.0

引張強さ

98N/5cm (10kgf/5cm)以上

透水係数

1.5×10<sup>-1</sup>cm/sec以上

試験

路床土の支持力比(CBR)試験

・行う  
・行わない

路床締固め度の試験

・行う  
・行わない

現場CBR試験

・行う  
・行わない

路盤

路盤の厚さ

・図示による

路盤材料(改修標準仕様書9.7.3による種別)

・クラッシュラン

・粒度調整砕石

・再生クラッシュラン G

・再生粒度調整砕石 G

・クラッシュラン鉄鋼スラグ G

・粒度調整鉄鋼スラグ G

・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G

舗装の構成

・図示による

開粒度アスファルト混合物等の抽出試験

・行う  
・行わない

舗装の平坦性

著しい不陸がないもの

・

備考欄

青森県五所川原市金木町中泊本館石250番地

日東綜合株式会社

代表取締役  
山中政広

TEL 0173-53-2491 FAX 0173-53-2493

管理建築士

一級建築士事務所 奥知事登録 第1120号

大臣登録 第260109号 一級建築士 片山 正一

承認

設計

担当

縮尺

設計年月日

2025.02

工事名称

市浦小学校（小中併置校）改修（建築・校舎食堂）工事

図面名称

校舎・食堂棟 改修特記仕様書（その7）

NO.

TKA-07

8 耐震改修工事 共通事項	・適用範囲	・改修標準仕様書 8 章 耐震改修工事 ・改修標準仕様書において 8 章耐震改修工事以外の改修工事で 8 章を引用している部分	・圧接完了後の試験	超音波探傷試験 行う(全圧接部)	○コンクリートの種類	コンクリートの類別 ○類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ・類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)	・構造体コンクリートの仕上り	合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ
	・既存部分の処理等	工事内容 ・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・鉄骨フレームの設置工事 ・柱補強工事 (溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法) ・柱補強工事 (鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法) ・連続縦横補強工事 ・耐震スリット新設工事 ・免震改修工事 ・制振改修工事 ・土工事及び地盤工事	・機械式継手	適用箇所 ・図示による ( ) H12建告第1463号に適合する性能 A 級 種類 ・ねじ式鉄筋継手 ・充填方式 ・無機グラウト方式 ・有機グラウト方式 ・端部ねじ加工継手 ・モルタル充填式継手 工法 第三者機関の評定等を取得している工法とする 鉄筋相互のあき 評定等の評価内容による 品質の確認 評定等の評価内容による 検査 評定等の評価内容による 施工完了後の継手部の試験 ・外観試験 試験対象 全数 試験項目 ・評定等の評価内容による 試験方法 ・評定等の評価内容による ・超音波測定試験 試験対象 ・抜き取り ロット ・1組の作業班が1日に行った継手箇所で、最大200箇所程度とする。 試験の箇所数 1ロットに対して ( ) 箇所 ・全数 試験項目 挿入長さ 試験方法 JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準) による 不合格となった場合の措置	○普通コンクリート 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) ○24 ・ スランプ (cm) ○15 ・ 気乾単位容積質量 (t/m <sup>3</sup> ) ・2.3程度 ・ 適用箇所 構造体強度補正值 改修標準仕様書表8.2.4による ・軽量コンクリート 設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> ) ・ スランプ (cm) 21 ・ 気乾単位容積質量 (t/m <sup>3</sup> ) ・ 種類 ・1種 ・2種 ・ 適用箇所 構造体強度補正值 改修標準仕様書表8.2.4による 種 類 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 (普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352 J/g 以下、かつ28日目で 402 J/g 以下のものとする) 適用箇所 ( ) ・高炉セメントB種 [G] 適用箇所 ( ) ・フライアッシュセメントB種 [G] 適用箇所 ( ) ・ ○セメント ○骨材 ○ 混和材料 アルカリシリカ反応性による区分 A ・B ・混和剤 混和剤の種類 改修標準仕様書 8.2.5(4)(a) による ・混和材 混和材の種類 改修標準仕様書 8.2.5(4)(b) による 構造体用モルタル 圧縮強度 ( ) フロー値 ( ) 構造体用モルタル 構造体強度補正值 6N/mm <sup>2</sup> 適用箇所 ・図示による ( ) セメントの種類 ・普通ポルトランドセメント ・中熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 [G] ・シリカセメント 混和材料 ・混和剤 混和剤の種類 標準仕様書6.13.2(2)(7)による ・混和材 混和材の種類 標準仕様書6.13.2(2)(4)による スランプ 15cm 構造体強度補正值 標準仕様書表6.13.1による ○ 無筋コンクリート コンクリートの種類 普通コンクリート 設計基準強度 18N/mm <sup>2</sup> スランプ 15cm又は18cm セメントの種類 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 [G] 適用箇所 ・図示による ( ) 適用箇所 ・図示による ( ) 打継ぎの位置 ・図示による ( ) 目地寸法 ・標準仕様書 9.7.3(1)(7)による ・図示による ( ) ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法 ・図示による ( )	○型枠 打増し厚さ (打放し仕上げ部) 型枠の加工及び組立 コンクリートの打込み工法等	・打増し厚さ (打放し仕上げ部) ・打増し厚さ (外部に面する部分に限る) ・20mm ・打増し厚さ (内部に面する部分に限る) ・10mm ・20mm せき板の材料及び厚さ ・合板 ( 12mm ) [G] ・断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・図示による ( ) ・M C R 工法用シート ・図示による ( ) 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による ( ) スリーブの材質・規格等 ・図示による ( ) シアコネクタをセパレーターとして使用 使用箇所 ・図示による ( ) コンクリートの打設工法の種類 補 強 工 法 打 設 工 法 部 位 ・現場打ちコンクリート ・工法指定なし ・全ての増設壁 ・図示による ( ) ・1 組の作業班が1日に行った打放し箇所、最大200箇所程度とする。 ・図示による ( ) ・圧入工法 8.21.8(1)(4),(3) ・図示による ( ) ・柱補強工事 (溶接・工法指定なし) ・全ての柱補強部分 ・図示による ( ) ・全周巻き及び溶接 ・流込み工法 8.21.8(1)(7),(2) ・全ての柱補強部分 ・図示による ( ) ・閉鎖フープ巻き ・圧入工法 8.21.8(1)(4),(3) ・全ての柱補強部分 ・図示による ( ) ・工法指定なし ・流込み工法 8.21.8(1)(7),(2) ・圧入工法 8.21.8(1)(4),(3) 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等 柱頭及び柱脚の隙間の寸法 ・図示による ( ) 柱頭及び柱脚の隙間部間の型枠 ・発泡プラスチック保温材等を埋込む 既存柱外周部あと打ちコンクリート又は構造体用モルタルの厚さ ・図示による ( ) ・図示による ( )	
8-3 鉄骨工事	・鉄骨製作工場 ・鉄骨製作工場における施工管理技術者 ・鋼材	鉄骨製作工場の加工能力 建築基準法 第68条の25 に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 ( ) グレード以上 ・監督職員の承諾する工場 配置する 種類等 種類の記号 適用箇所 (主要な部分) 規 格 ・JISによる ・JISによる ・JISによる ・JISによる ・JISによる ・JISによる	・割製補強筋	形状 ・スパイラル筋 ・ 種類の記号 ・SR235またはS10M-P 呼び径、曲げ直径、ピッチ ・図示による	・流動化コンクリート	・鉄骨製作工場における施工管理技術者	・鉄骨製作工場における施工管理技術者	・鉄骨製作工場における施工管理技術者

備考欄	青森県五所川原市金木町中粕木250番地 日 東 綜 合 株 式 会 社 代表取締役 山中政広 TEL 0173-53-2491 FAX 0173-53-2493	管 理 建 築 士 一級建築士事務所 県知事登録 第 1120 号 大臣登録 第260109号 一級建築士 片山 正一	承認 設計 担当 縮 尺 設計年月日 2025.02	工事名称 市浦小学校 ( 小中併置校 ) 改修 ( 建築・校舎食堂 ) 工事 図面名称 校舎・食堂棟 改修特記仕様書 ( その 8 )	NO. TKA-08
-----	---	---	-------------------------------------	--	------------

<div> <div>・ 高力ボルト</div> <div>・ 普通ボルト</div> <div>・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト</div> <div>・ アンカーボルト</div> <div>・ 溶接材料</div> <div>・ スタッド</div> <div>・ 製作精度</div> <div>・ 仮組</div> <div>・ 溶接作業を行う技能資格者の技量付加試験</div> </div>	<div> <div>高力ボルトの種類</div> <div>・ トルスタ形高力ボルト</div> <div>・ JIS形高力ボルト</div> <div>ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>摩擦面の処理方法</div> <div>・ 改修標準仕様書8.14.2(1)による。</div> <div>・ すべり試験の実施</div> <div>・ すべり係数試験</div> <div>・ すべり耐力試験</div> <div>すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.14.2(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。</div> <div>ボルト及びナットの材料</div> <div>・ 標準仕様書 表7.2.3(JIS附属書品)又は次による</div> <div>ボルトの規格は、JIS B 1180とする。</div> <div>ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は全ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。</div> <div>ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。</div> <div>ナットの規格は、JIS B 1181とする。</div> <div>ナットの種類は、六角ナット・Cとし、材料は鋼とする。</div> <div>座金</div> <div>JIS B 1256による</div> <div>ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径</div> <div>ねじの呼び径+1.0mm</div> <div>ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>摩擦面の処理方法</div> <div>・ プラスト処理(表面粗度50μmRz以上)</div> <div>・ リン酸塩処理</div> <div>・ すべり試験の実施</div> <div>・ すべり係数試験</div> <div>・ すべり耐力試験</div> <div>すべり試験を実施する場合、改修標準仕様書8.20.5(1)(7)又は(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。</div> <div>・ 構造用アンカーボルト</div> <div>種類</div> <div>・ ABR400</div> <div>・ ABR490</div> <div>・ 建方用アンカーボルト</div> <div>種類</div> <div>・ SS400</div> <div>アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度</div> <div>標準仕様書 表7.2.3による</div> <div>・ 標準仕様書7.2.4以外のアンカーボルト</div> <div>適用箇所</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>種類</div> <div>・ SS400</div> <div>アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度</div> <div>標準仕様書 表7.2.3による</div> <div>ボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等</div> <div>・ 図示による(構造関係共通事項(鉄骨標準図)1-1 線端距離及びボルト間隔)</div> <div>溶接材料</div> <div>・ 改修標準仕様書 8.2.10(1)(2)による</div> <div>・ 種類等</div> <div>呼 び 名</div> <div>呼 び 長 さ (mm)</div> <div>適 用 箇 所</div> <div>・ 16</div> <div>・ 19</div> <div>・ 22</div> <div>鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6(鉄骨精度検査基準)に加えて、次による</div> <div>通しダイアグラムの突合せ継手の食い違いの寸法</div> <div>H12建告第1464号第二号イ(2)による</div> <div>・ アンダーカットの寸法</div> <div>H12建告第1464号第二号イ(3)による</div> <div>食い違い・仕口のずれの検査方法及び補強方法</div> <div>・ 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による</div> <div>仮組を行う範囲</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>試験の要領</div> <div>・ 図示による( )</div> </div>	<div> <div>・ 溶接接合</div> <div>・ 入熱、バス間温度の溶接条件</div> <div>・ 溶接部の試験</div> <div>・ 錆止め塗装</div> <div>・ 耐火被覆</div> <div>・ アンカーボルト等の設置等</div> <div>・ 鉄骨ブレース設置後の仕上げ</div> </div>	<div> <div>開先の形状</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>・ 鋼製エンドタブの切断する部分</div> <div>切断する箇所</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>切断範囲</div> <div>・ 鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。</div> <div>なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する</div> <div>切断面の仕上げ</div> <div>・ 改修標準仕様書8.15.7(1)(a)(b) による</div> <div>スカラップの形状</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>適用箇所</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部</div> <div>平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等</div> <div>・ 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による</div> <div>・ 抜き取り検査</div> <div>抜き取り検査</div> <div>JASS 6 付則 6(鉄骨精度検査基準)の付表3「溶接」に関する試験方法等</div> <div>・ JASS 6 10.4[受入検査]e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の採取箇所は、超音波探傷試験の採取箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する</div> <div>完全溶込み溶接部の超音波探傷試験</div> <div>・ 工場溶接の場合</div> <div>全数</div> <div>・ 工場現場溶接の場合</div> <div>全数</div> <div>塗料の範囲</div> <div>耐火被覆材の接着する面の塗装範囲</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲</div> <div>改修標準仕様書8.17.2(1)による</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>塗料の種類</div> <div>・ 下記以外の鉄鋼面は、7章[塗装改修工事]による</div> <div>・ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種類</div> <div>A種</div> <div>・ 耐火被覆材が接着する面の塗料の種類</div> <div>・</div> <div>種類、材料、工法等</div> <div>種 類</div> <div>材料・工法</div> <div>性能(耐火時間)</div> <div>適用箇所(部位・部分)</div> <div>・ 耐火材吹付け</div> <div>・ 乾式吹付けロックウール</div> <div>・ 半乾式吹付けロックウール</div> <div>・ 湿式ロックウール</div> <div>・</div> <div>・ 耐火板張り</div> <div>・ 繊維混入けい酸カルシウム板</div> <div>・</div> <div>・ 耐火材巻付け</div> <div>・ 高断熱ロックウール</div> <div>・</div> <div>・ ラス張りモルタル塗り</div> <div>・</div> <div>・ 耐火塗料</div> <div>・</div> <div>構造用アンカーボルトの形状及び寸法</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>構造用アンカーフレームの形状及び寸法</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>建方用アンカーボルトの形状及び寸法</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法</div> <div>種類</div> <div>・ A種</div> <div>・ B種</div> <div>柱底均しモルタル厚さ及び工法の種類</div> <div>厚さ</div> <div>・</div> <div>・ 種類</div> <div>A種</div> <div>・ B種</div> <div>・ 図示による( )</div> </div>	<div> <div>8-4</div> <div>あと施工アンカー工事</div> <div>・ あと施工アンカー</div> <div>材料等</div> <div>・ 金属系アンカー</div> <div>・ 引張耐力</div> <div>・ kN</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>・ せん断耐力</div> <div>・ kN</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>アンカー本体の径及び埋込み長さ</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>セット方式</div> <div>本体打込み式改良型</div> <div>接合部の種類、径、長さ</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>・ 性能確認試験</div> <div>試験方法及び試験数</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>・ 接着系アンカー</div> <div>・ 引張耐力</div> <div>・ kN</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>・ せん断耐力</div> <div>・ kN</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>アンカーの種類</div> <div>カプセル方式回転打撃式</div> <div>接着剤の品質</div> <div>・ 有機系</div> <div>・ 無機系</div> <div>アンカー筋の径及び埋込み長さ</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>アンカー筋の種類</div> <div>・</div> <div>アンカー筋の新設室内への定着の長さ</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>・ 性能確認試験</div> <div>試験方法及び試験数</div> <div>・ 図示による( )</div> <div>埋込み配管等の探査方法</div> <div>・ 鉄筋探知器(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う</div> <div>・ はつり出しによる</div> <div>試験方法</div> <div>引張試験機による引張試験</div> <div>確認強度</div> <div>・ 図示による(耐震補強共通図)</div> <div>・</div> <div>埋込み配管等の探査方法</div> <div>・ 鉄筋探知器(金属探知器)により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う</div> <div>・ はつり出しによる</div> <div>試験方法</div> <div>引張試験機による引張試験</div> <div>確認強度</div> <div>・ 図示による(耐震補強共通図)</div> <div>・</div> <div>・ 穿孔</div> <div>・ 施工確認試験</div> <div>・ あと施工アンカー穿孔工法</div> <div>8-5</div> <div>グラウト工事</div> <div>・ 柱底均しモルタル及びグラウト材</div> <div>・ 柱底均しモルタル</div> <div>無収縮モルタル</div> <div>・ グラウト材</div> <div>無収縮グラウト材の材質等</div> <div>混和材</div> <div>セメント系(酸化カルシウム及びカルシウム・サルフォ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの)とする。</div> <div>セメント</div> <div>JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。</div> <div>砂</div> <div>土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。</div> <div>ただし、現場調査形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。</div> <div>無収縮グラウト材の品質及び試験方法</div> <div>コンシステンシ</div> <div>「J」ロートによる流下時間</div> <div>練混ぜ完了から3分以内の値</div> <div>・ 8±2秒</div> <div>ブリージング</div> <div>練混ぜ後2時間後のブリージング率</div> <div>・ 2.0%以下</div> <div>凝結時間</div> <div>凝結開始時間</div> <div>・ 1時間以上</div> <div>凝結時間</div> <div>・ 10時間以内</div> <div>無収縮性</div> <div>材齢 7日</div> <div>収縮しない</div> <div>圧縮強度</div> <div>材齢 3日</div> <div>20.0 N/mm<sup>2</sup>以上</div> <div>材齢 28日</div> <div>40.0 N/mm<sup>2</sup>以上</div> <div>塩化物量</div> <div>0.30kg/m<sup>3</sup> 以下</div> <div>試験方法</div> <div>1) NEXCO試験方法 試験法 312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調査形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。</div> <div>2) 塩化物量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。</div> <div>8-6&lt;/</div></div>
--	---	---	---	--

備考欄	青森県五所川原市金木町中泊本館石250番地 <b>日 東 綜 合 株 式 会 社</b> TEL 0173-53-2491 FAX 0173-53-2493 <small>代表取締役 山中政広</small>	管 理 建 築 士 一級建築士事務所 県知事登録 第 1120 号 大臣登録 第260109号 一級建築士 片山 正一	承認	設計	担当		縮 尺	工事名称	市浦小学校（小中併置校）改修（建築・校舎食堂）工事	NO.  TKA-09
							設計年月日	図面名称	校舎・食堂棟 改修特記仕様書（その9）	
							2025.02			

章	項 目	特 記 事 項	防水改修工事	内装改修工事								
土木工事	○ 建設発生土の処理	・ 場外搬出適正処理（参考標準運搬距離      km） ○ 構内指示の場所に敷き均し ・ 構内指示の場所に堆積 ・ 構外指示の場所に処分（受入れ施設名、受入れ場所、仮置場所、搬出調書等を提出する。）	・ 伸縮調整目地	成形伸縮目地（天端EPTゴム、サイドブチルゴム製）は評価名簿による。								
	地業工事  ・ 杭、地盤の載荷試験  ・ 六価クロム溶出試験	杭、地盤の試験の方法及び報告書の記載事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部「敷地調査共通仕様書」を標準とする。  地盤改良工事等でセメント及びセメント系固化材を使用する場合は、六価クロム溶出試験要領により、試験を実施し試験結果（計量証明書）を監督職員に提出すること。 ・ 配合設計段階（    検体） ・ 施工段階（    検体）	○ 材料  ・ 防虫処理  ・ フローリング張り	樹種 標準仕様書の「ひのき」は「ひば」と読み替える。  ラワン材等を使用する場合 ・ 保存処理の性能区分K1  本特記事項は、体育館の床には適用しない。								
コンクリート工事	○ 骨材  ○ 品質管理	構造体に関する耐震安全性の分類が    類以外の建築物で、地域等によって区分Bの骨材を使用せざるを得ない場合、監督職員と協議し、次のいずれかの方法により承諾を受けた場合に限り使用できる。 (1) アルカリ総量が3.0kg/m3以下であることを配合計画書により確認 (2) 抑制効果のある混合セメントを使用  構造体に用いるコンクリート用骨材の品質試験を次により実施すること。 (1) アルカリシリカ反応性試験の方法は化学法(JIS A 1145)又は迅速法(JIS A 1804)による。 (2) コンクリート製造工場の選定後、速やかに品質試験実施計画書を作成し、監督職員に提出すること。 (3) 原則として受注者の立会いのもと試料の採取を行うこと。 (4) 計画調査書の作成前に、原則として試験機関に委託し実施すること。試験の実施後、6ヶ月を経過する都度及び産地が変わった場合には再試験を実施すること。 (5) 試験の結果は書面により速やかに報告すること。 (6) アルカリシリカ反応性試験の結果、区分Bと判定された場合は、監督職員と協議すること。										
	○ 材料	樹種 標準仕様書の「ひのき」は「ひば」と読み替える。										
塗装工事	○ 塗装業者	（一社）日本塗装工業会の会員又は監督職員の承諾する者とする。										
撤去工事	○ 一般事項  ○ 施工計画書  ○ 工法等  ○ 分別解体等に係る施工方法	(1) 建設廃棄物等の処分は、関係法令に従い安全かつ公害を発生させない方法で行うこと。 (2) 計画内容は工事施工関係者に広く周知徹底させる。 (3) 騒音、振動は使用機器の能力等により、事前に所要の手続きをして解体に伴う関係官庁の了解を得ること。  (1) 使用機械器具、各工種の材料、工法、日程等の内容を記載すること。 (2) 重機械等を建築物等に載せる場合は、構造体の安全を確認する検討書を添付すること。  内装材の撤去は原則として火気を使用しないこと。やむを得ず使用する場合は、消火器具等を準備し監視人を配置するなど防火対策を入念に行う。  内装仕上げ材、建築設備の撤去 ビニル床タイル、間仕切壁、天井材、建具類等の内装仕上げ材及び建築設備は、コンクリート類の再資源化を図るため、手作業による先行撤去とし、コンクリート類とは分別解体とすること。 ・ 手作業、機械作業の併用による。  屋根ふき材 手作業による。 ・ 手作業、機械作業の併用による。										
	○ 石膏ボードの処分方法	撤去は手作業を原則とし、管理型処分場で処分すること。 ひ素・カドミウム含有せつこうボードは、出来る限り製造業者に処分を依頼すること。										

備考欄	青森県五所川原市金木町中泊本郷石250番地 <b>日 東 綜 合 株 式 会 社</b> 代表取締役 山中政広 TEL 0173-53-2491 FAX 0173-53-2493	管 理 建 築 士  一級建築士事務所 県知事登録 第 1120 号 大臣登録 第260109号 一級建築士 片山 正一	承認	設計	担当		縮 尺	工事名称    市浦小学校（小中併置校）改修(建築・校舎食堂)工事  図面名称    校舎・食堂棟 改修特記仕様書（補足）(その１０)	NO.    TKA-10
							設計年月日		
							2025.02		





備考欄	青森県五所川原市金木町中船木館石250番地	管 理 建 築 士	承 認	設 計	担 当	縮 尺	工事名称 市浦小学校（小中併置校）改修（建築・校舎食堂）工事	NO.  TWA-03
	日 東 綜 合 株 式 会 社	一級建築士事務所 県知事登録 第 1120 号				設計年月日		
	代表取締役 山中政広	大臣登録 第260109号 一級建築士 片山 正一						
	TEL 0173-53-2491 FAX 0173-53-2493				2025.02	図面名称 校舎・食堂棟 木造特記仕様書（その４）		

	・ 粘土瓦葺	タイトフレームを留め付ける下地材		・谷どい 種類 ・木造標準仕様書14.8.1( ) 板厚 ・ 銅板 板厚 一般部0.35mm、谷どい部0.4mm ・ ・硬質塩化ビニル樹脂製 種類( ) 外径( ) 厚さ( ) 長さ( )  多雪地域 ・適用する ・適用しない  硬質塩化ビニル製集水器の形状 ・図示による  硬質塩化ビニル製あんこうの形状 ・図示による	○サイディング工事	○窯業系サイディング工事 サイディング		<作成上の留意事項> 章の追加について 以下の章が該当する場合は、新営特記仕様書より 本仕様書へコピーのうえ、特記すること。	
	・ スレート葺		⑳ ユニット及びその他の工事	・断熱・防露工事					
	・ アスファルトシングル葺								
	・ とい								





[illegible]

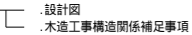
①  
一般事項

木造工事構造関係補足事項

1.1 適用範囲

建築物および工作物の構造上主要な部分に木材を用いる工事に適用する。  
特記仕様は、項目の番号に○の付いたもの、特記事項は◎の付いたものを適用する。

1.2 優先順位

図面間に相違がある場合は以下のとおりとする。  
(1)図面設計図  
木造工事構造関係補足事項

1.3 加工図の提出

工事に先立ち加工図を作成し、監督職員に提出する。プレカット製品を使用する場合には、プレカット図を加工図とする。

1.4 木材等の加工工場の選定、承諾

設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した加工工場を選定し、監督職員の承諾を受ける。

1.5 参考図書

設計図書に示されていない事項については、監督職員の指示によるほか下記による。  
(1)建築工事標準仕様書・同解説 JASS11 木工事  
(2)

②  
材料の品質

2.1 製材

・特記無き梁桁、母屋、垂木等の曲げ材のうち、見えがかり材は目視等級材の甲種2級、見え隠れ部分の木材は甲種3級とする。その他は乙種2級とする。

・乾燥の際、背割りを行う。ただし見えがかり部・相欠き部材・構造用合板の釘接合面には行わない。

・強度等級を指定した材料は特に、材料の欠点の部、目切れ等に注意して材料を選定する。

③  
材料の品質の検査方法

3.1 共通事項

(1)木材等の加工工場に搬入された材料及び接合具・接合金物等は、受け入れ検査を行い、監督職員に報告する。また、設計図書で定められた性能を満たさない材料は用いない。

(2)加工材は、現場搬入前に断面寸法、長さ、仕口及び継手の位置、接合金物等の取付け位置等について全数確認を行い、記録を監督職員に提出する。

(3)加工材は、現場搬入後建方前に寸法及び含水率について、監督職員の検査を受ける。検査数量については、施工計画書で定める。

3.2 製材及び枠組壁工法構造用製材

検査方法は以下による。

(1)日本農林規格に適合する木材又は国土交通大臣の指定を受けた木材の受け入れ検査は、出荷証明書に基づき表示の確認を行う。

(2)(1)以外の木材の受け入れ検査は出荷証明書に基づき、木造標準仕様書によるほか日本農林規格に準じて行う。

(3)無等級材、広葉樹製材及び丸太材の縦振動ヤング係数による基準強度の確認は、以下による。  
( )無等級材のうち次の樹種については、製材の日本農林規格第6条に定める品質曲げ性能における等級の区分に準拠する。それ以外の樹種については、既往の研究等に基づき適切に定め、施工計画書を作成し提出する。  
あかまつ、べいまつ、からまつ、ひば、ひのき、べいつが、えぞまつ、とどまつ、すぎ  
製材の日本農林規格第6条に定める等級の区分（機械的等級区分と測定曲げヤング係数）

等級	E50	E70	E90	E110	E130	E150
曲げヤング率 (×10 N/mm)	3.9以上 ～5.9未満	5.9以上 ～7.8未満	7.8以上 ～9.8未満	9.8以上 ～11.8未満	11.8以上 ～13.7未満	13.7以上

( )広葉樹及び丸太材については、既往の研究等に基づき適切に定め、施工計画書を作成し提出する。

・日本農林規格に適合する木材を使用する場合は、製材工場の認定書の写しを提出する。

・全乾重量法及び静的ヤング係数試験は、公的試験場にて行う。また、試験体は生産地等を使用する同一部材の中から抽出し、試験方法は、木材の試験方法（JIS Z 2101）に準じて行う。

・全乾重量法試験

・静的ヤング係数試験

検査数量（ ）

3.3 構造用集成材、構造用単板積層材、構造用合板、構造用パネル等

検査方法は以下による。

材料	確認項目	確認の方法
・構造用集成材	部位、断面、長さ、数量、樹種、品名、強度等級、材面の品質、使用環境、ホルムアルデヒド放数量	・日本農林規格（JAS）表示の確認
・構造用単板積層材	部材、断面、長さ、数量、樹種、区分、曲げ性能、水平せん断性能、使用環境、ホルムアルデヒド放数量	・立会い目視検査
・構造用合板	寸法、数量、強度等級、曲げ性能基準、板面の品質、接着の程度、ホルムアルデヒド放数量	・出荷証明書
・構造用パネル	寸法、数量、部位、曲げ性能、ホルムアルデヒド放数量	

③  
材料の品質の検査方法

3.4 接合具（Z・C・D・S・Mマーク表示金物も含む）

検査方法は以下による。

接合具の種類	確認項目	確認の方法
・釘、特殊釘等	鋼材種別、胴・頭径部、長さ、仕上げ	・ミルシートの写し
・木ねじ	鋼材種別、径、長さ、仕上げ	・表示の確認
・ボルト、ナット	鋼材種別、径、長さ、仕上げ	・出荷証明書
・アンカーボルト	鋼材種別、径、長さ、仕上げ	・認定規格書
・座金	鋼材種別、径、仕上げ	
・ドリフトピン	鋼材種別、径、長さ、仕上げ	
・ラグスクリュー	鋼材種別、径、長さ、仕上げ	
・木栓・木だば	材質、基準強度	
・輪型ジベル	鋼材種別、径、形状、仕上げ	
・圧入型ジベル	鋼材種別、径、形状、仕上げ	

3.5 接合金物（Z・C・D・S・Mマーク表示金物、製作金物）

検査方法は以下による。

接合金物・接合具等	確認項目	確認の方法
・接交いプレート	鋼材種別、形状、仕上げ、認定規格等	・ミルシートの写し
・引き寄せ金物		・表示の確認
・梁受け金物		・認定規格書
・鋼材	鋼材種別、形状、仕上げ	

7  
接合部の工法

7.5 ラグスクリューの工法

(1)締付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径等が設計図書に適合していることを確認する。

(2)ネジ部の先孔の径：ネジ径の50～70%（長さはネジ部の長さと同寸とする。）

(3)ラグスクリューは先孔にレンチなどで回しながら挿入し、ハンマーなどで打ち込んでから行う。

(4)ねじ込みを容易にする為や損傷させない為に潤滑油などを用いてもよい。

(5)胴部の先孔の径は胴部と同径とし、長さも胴部と同寸とする。

(6)一度ねじ込んだラグスクリューを抜き直し、再びねじ込むことはしない。

7.6 ドリフトピンの工法

(1)ドリフトピンは孔に密着させる。

(2)一度締付けた併用ボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みを確認し、緩んだものについては再度締め直しを行う。

7.7 輪型ジベル接合、圧入型ジベル接合の工法

(1)木部材は接合部付近の割れ、節、目切れなどの欠点がないよう注意する。

(2)接合材は十分圧着させる。木材の収縮により圧着が不完全にならないようボルトの緩みを確認し、緩んだものについては再度締め直しを行う。

7.8 接合金物の工法

(1)羽子板ボルト、ひら金物、短冊金物、かね折り金物および箱金物などの取付けは、接合両材の間が密着するように締付ける。

7.9 その他の方法による工法

(1)使用材料及び使用方法は図示によるものとする。

8  
運搬・建方

8.1 アンカーボルトの施工

(1)アンカーボルトは二重ナットとする。

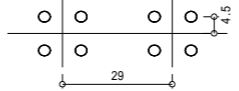
(2)土台の孔あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。

(3)柱脚部に製作金物を使用する部位については以下の数値を受入基準とする。

・柱据え付け面：基準高さからの誤差 ±2mm以下

・柱隣接間中心距離の誤差±1：±2mm以下

・通り芯からの離れの誤差±2：±2mm以下



a：通り芯からの離れ L：柱隣接間中心距離

8.2 建方精度

(1)建入れ直し後の建方精度は、特記仕様書による。なお、特記がなければ施工計画書に定め、監督職員に提出する。

(2)柱据え付け面の高さ及びアンカーボルトの位置

・柱据え付け面の基準高さからの誤差：±3mm以下

・通り芯からの離れの誤差：±3mm以下

・階高：-5mm H +5mm

④  
材料の品質の検査方法

4.1 土壌処理

防蟻薬剤による処理方法  
使用する薬剤は、日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の規格による。  
処理範囲は、建築物の基礎に囲まれた床下の土壌を対象とし、以下による。  
基礎、束石及び配管類の立上り部分の土壌は、基礎等の壁際から20cm幅を帯状散布とする。  
浴室、便所、玄関、勝手口等の土間コンクリート下部は、基礎等の壁際から20cm幅を帯状散布をし、その内側を面状散布をする。  
薬剤使用量は、帯状散布が処理長さ1m当たり1リットル、面状散布は1m当たり3リットルとする。

4.2 刻み時の注意

製材に背割りがある場合、曲げ材は断面の弱軸と背割りの方向を一致させる。  
仕口や接合部に欠点が当たらないよう加工する。

4.3 加工寸法の精度

加工材の断面寸法、長さは次による。  
・建方精度等を考慮し、施工計画書に定める。

4.4 寸法精度

接合金物の寸法精度  
幅、長さは製作図の寸法 ±2.0mm  
  
孔あけ許容寸法  
孔芯ずれ ±1.0mm  
孔間隔のずれ ±1.0mm

4.5 仕口、継手の原則

(1)仕口、継手の方法・位置は構造図による。

(2)17.2から7.8の接合部の項目については、設計図書に記載された仕様を確認し施工する。

4.6 釘の工法

(1)釘は材の繊維に対して乱に打ち、割れを生じないように端距離、縁距離、釘間隔を大きく取る。

(2)釘の長さは、特記がなければ材厚の2.5倍以上とする。

(3)接合部1ヶ所の釘の本数は2本以上とする。

(4)自動釘打ち機を使用する場合は、釘頭部が過度にめり込まないようにする。

4.7 木ねじの工法

(1)木ねじの先孔の径（dは木ねじ径）は、針葉樹の主材を0.6d、側材は0.8d、広葉樹の主材を0.8d、側材は1.0dとする。また、先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2/3程度とする。

(2)ねじ込みには適切な道具を使い、ハンマーなどで打ち込んでから行う。

(3)ねじ込みが難しい場合には、ねじ込みを容易にしたり、損傷させないために潤滑油などを用いてもよい。

4.8 各種ボルトの工法

(1)締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が設計図書に適合していることを確認する。

(2)ボルトの締付けは2回以上に分けて行い、1群のボルトの締付けは1本となるように行う。

(3)ボルトの締付けは、座金が部材にめり込む程度とし、めり込み音が発生した時点で締付けを完了する。

(4)締付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2～3山以上出ていることを確認する。

(5)一度締付けたボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みを確認し、緩んだものについては再度締め直しを行う。

備考欄

青森県五所川原市金木町中泊木嶋石250番地

日東綜合株式会社 代表取締役 山中政広

TEL 0173-53-2491 FAX 0173-53-2493

管理建築士

一級建築士事務所 泉知事登録 第1120号

大臣登録 第260109号 一級建築士 片山 正一

承認

設計

担当

縮尺

設計年月日

2025.02

工事名称

市浦小学校（小中併置校）改修(建築・校舎食堂)工事

図面名称

校舎・食堂棟 木造工事構造関係補足事項（その19）

NO.

TWA-08



[illegible]